

## 令和7年度第5回国立大学法人静岡大学経営協議会議事要録

日時 令和7年11月26日(水) 11時00分～12時30分  
場所 S-Port 3階大会議室  
出席者 赤塚、岩崎、大石、鈴木、野田、平木、牧田、三輪の各委員  
日詰、塩尻、金原、二又、大石、鈴木、佐藤、大島、吉川(Web参加)の各委員  
欠席者 大須賀、加藤の各委員  
陪席者 高倉(Web参加)、大橋の各副学長、飯田、河島の各監事

### I 前回議事要録の承認

令和7年度第4回国立大学法人静岡大学経営協議会議事要録(案)を原案どおり承認した。

### II 懇談事項

#### 1 今後の大学院改革について

塩尻委員から、大学院改組に向けた国の動向を踏まえ、静岡大学における大学院教育の状況と改革に向けた課題について、資料1により説明があり、各委員から、社会や地域と連携した修士・博士人材の育成のあり方について、意見等が述べられた。

#### (説明の要旨)

##### (1) 大学院教育についての提言等

- ・大学院教育を抜本的に充実するとともに、博士人材の増加を図ることが必要  
(令和7年2月21日 中央教育審議会)
- ・学部や大学院の在り方を再構築するとともに、教育・研究体制の改革と定員の適正化を進めなければならない  
(令和7年3月31日 国立大学協会)

##### (2) 静岡大学における課題

- ・大学院全体の組織体制等の見直し
- ・カリキュラム見直し等による学士課程から博士後期課程までの教育の体系化
- ・留学生、社会人学生の受入れ促進

#### (委員から出された意見等)

平木委員：静岡大学は総合大学であり分野を絞ることは容易ではないが、選ばれる大学となるためには、エッジを立てて先鋭性を示し、静岡大学ならではの特色ある教育研究を強化することが大切ではないか。

大石委員：工学部の学士から修士への進学率が低い点が課題であり、学士・修士の連携強化が必要ではないか。また、人文社会科学系の博士課程を設置することについては、どのような人材を育成するのか、そのためには博士課程が必要かについての議論が必要である。

塩尻委員：博士課程の人材育成について、本学の自然科学系教育部は理系教員が

教育にあたっているが、人文社会科学系の教員も参画し、専門知だけを学ぶのではなく、様々な社会課題に対応できる広い視野と総合知を持つ人材を育成することを目指している。

牧田委員：社会人学生の受入れを進める上で、「静岡大学で学びたい」と思わせる特色が不可欠であり、首都圏の大学も含めた他大学との差別化をどのように図るのか検討が必要ではないか。

塩尻委員：社会人学生の受入れも含め大学院の進学については、静岡大学に良い教育研究がなければ、選ばれない現状があるため、静岡大学ならではの学び、強みや特徴を伸ばすとともに、大学院の専門領域に共通する基礎部分の教育をしっかりと行うことが大切だと考えている。

野田委員：各課程修了者が、それぞれどのような人材として育成されるのかが明確となる、静岡大学独自のペルソナを示してほしい。

岩崎委員：大学において学び直し（リスキリング）の体系的な機会を構築することを検討していただきたい。社会に出てから改めて学ぶことは極めて大きな効果がある。

議長：本学としては社会人ドクターを増やしていく意向があり、地域の企業や経済界と意見交換しながら、大学での学び直しの体系的な機会を構築していきたい。

鈴木委員：社会人が行き詰まった際に新たな教育を受けられる環境は重要であり、学び直しの機会の整備に力を入れるべきではないか。

塩尻委員：ニーズに合致したリカレント教育のプログラムを準備し、対応を検討している。

議長：希望やニーズに対して門戸が開かれていることが大事だと認識している。

金原委員：工学部は地域の企業とのつながりが強く、企業で活躍できる人材となるよう、学士から修士まで一貫した人材育成に取り組んでいる。学生を集めるためには、静岡大学自体の高い研究基盤が不可欠であり、高い教育研究を行わなければ学生は増えない。したがって、研究者の研究力向上に継続的に取り組むことが重要だと認識している。

赤塚委員：実社会と乖離することに気を付けて、大学院改革に注力してほしい。学士と修士、修士と博士のつながりを考えて体制の整理を進めていただきたい。

### Ⅲ その他

#### 1 静岡大学関連記事

議長から、静岡大学に関連する新聞記事について、参考資料として紹介があった。

以 上